

(別記様式)

令和5年度 府立丹波支援学校亀岡分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） 【実施段階】

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>花ノ木医療福祉センターに入所している児童生徒を教育する学校であるという分校の特性及び特別支援教育の考え方を踏まえ、以下のことに取り組む。</p> <p>①学校経営計画に基づき計画的・組織的・効率的な経営を推進する。</p> <p>②一人一人の教育的ニーズに応じた指導を推進する。</p> <p>③安心安全の教育活動を推進する。</p> <p>④保護者、花ノ木医療福祉センター、地域等関係する諸機関と円滑な連携を図る。</p> <p>⑤教職員のメンタルヘルスケアを図る。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科等合わせた指導「生活単元学習」や音楽等の学習について、助言者を招聘して研修し、授業改善に取り組めた。 花ノ木医療福祉センターと連携し、感染状況をふまえて、こまめに感染対策を見直し、コロナ禍における教育環境を工夫し安全に実施できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分校生にとっての段階別の目標や評価、道徳の学習の在り方について検討する。 コロナ禍での感染対策の経験を生かし、安心安全を保ちながら、新しい形で学習や行事に取り組む。 新たな地域とのつながり方を工夫し、活動範囲を広げる。 	<p>(1) 集団での学び合いの場や教材を工夫し、今を大切にした学習を成立させる。</p> <p>(2) 研修等を実施して児童生徒理解を深め、個に応じた指導を充実させる。</p> <p>(3) 脱コロナの時代でも感染予防対策を徹底し、安全安心を確保しつつ、児童生徒にとって有意義な活動を実施する。</p> <p>(4) 交流内容を充実させ、実践を積極的に発信し、地域とのつながりを強める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織運営	学校経営（運）	コロナ禍前に実施していた学習や行事、会議等についての見直し 5類移行後の時代に適した行事や、取り組み方の工夫	B B	B	<p>○方向性や課題等を共有することで、一致して進めることができた。</p> <p>○家庭には年度始めに参観日の日程を伝えている。変更の際には手紙や副校長からの電話で迅速に連絡できた。</p> <p>▲学校メール等、電話、便り以外の方法で連絡を取れるよう工夫する。</p> <p>○勤務時間の関係で昼に短時間、ヒヤリハット事象の分析や、看護師の体制等について会議できた。再発防止や医ケアの向上につながった。</p> <p>▲会議の時間確保が課題である。</p> <p>○マスク、手指消毒、更衣等の感染予防対策</p>
	保護者連携（教）	行事等の計画的、柔軟な運営	B B		
	医療連携（医ケア）	花ノ木医療福祉センターとの綿密な連携 医療的ケアの質の向上	ヒヤリハット事象について原因分析の会議を定例化し、対応策を学校全体で共有・確認する。		

組織運営	危機管理 (危)	〔感染対策〕 校内における感染予防対策の整備及び徹底	基本的な感染予防対策の徹底を図る。さらに、花ノ木医療福祉センターと連携しながら、地域の感染状況に応じた的確な感染予防対策を整備し、全教職員へ周知徹底する。	B	B	<p>は、概ね徹底できている。</p> <p>○花ノ木の感染対策を参考にし、情報を共有しながら分校としての感染対策を検討することができた。(5類引き下げに伴うフローチャートの作り直し等)</p> <p>○教職員全員が基本的な感染対策を徹底し、安全な教育活動を実施することができた。(消毒の継続)</p> <p>○各行事等における感染対策について、花ノ木の感染対策や地域の現状を踏まえ検討することができた。(交流学习の制限)</p> <p>○不審者対応の訓練を実施し、対応や避難誘導の仕方、さすまたの使い方について研修することができた。不審者の侵入を防ぐための方策を出し合い、試してみることができた。</p> <p>○普通救命講習を受け、AEDの扱い方や心肺蘇生の手技について再確認できた。</p> <p>○個人情報情報を机上やプリンターに放置しないという意識が高まった。</p> <p>○郵送時には内容物をダブルチェックして、誤送防止に努力できた。</p> <p>○学習の単元ごとや、行事ごとに取組をホームページで紹介できた。</p> <p>▲地域へ便り等を回覧する等発信の方法を検討する。</p> <p>○会議等の終了時刻を意識して、時間内で終了できるよう努力をした。</p> <p>▲教職員のメンタル面での相談窓口を設定できなかった。</p>
			感染予防の概念を教育活動の一環としてとらえ、様々な活動の中における感染予防対策を日常化し、学校行事の再開等に向けた検討を進める。	B	B	
	〔防災・不審者対策等〕 不審者侵入時の適切な対応方法の獲得	警察署から講師を招き、講義と実技研修を受ける。	B	B		
		不審者対応のマニュアルを作成し、周知する。	B	B		
	〔緊急時の基本的な対応〕	緊急時の対応の基本を学ぶ。消防署の普通救命講習を受け、AEDの扱い方や心肺蘇生の手技を身につける。	B	B		
〔情報管理〕 個人情報の管理徹底	文書等の受け渡しを確実にし、決められた場所での保管を徹底する。	B	B			
情報発信 (情)	ホームページの更新と活用	日々の活動を保護者・地域の方に発信し、亀岡分校についての理解度を高める。	B	B		
業務改善 (運)	心身ともに健康に働ける職場づくり	教育の質の向上に努めながら、勤務時間内の時間の活用(会議、教材研究等)を効率よく進行させる工夫を出し合い、働き方改革を進める。	B	B		
教育課程	学習指導 (教・研)	「今を生きる子ども達」への教育課程の編成・計画・実施【教・教課】	学習指導要領を基にした道徳の目標を研究授業等で確認し、次年度教育課程の改善に繋がられるようにする。	C	<p>▲講師の調整ができなかった。次年度こそ実施する。</p>	
			校内研等を活用しながら各児童生徒の実態把握、アセスメントを検討できる場や、1人の児童生徒について話し合うケース会議の設定を行う。	B		<p>○書式を作成し、ケース会議を実施することはできた。今回のケース会議をまとめ、流れを提案できるようにしたい。</p>

教育課程	「今の自分の力を発揮できる」ための授業作りの研究【研】	学期毎に「生活単元学習」のまとめを行い、次の授業改善につなげる。	B	B	<p>○まとめは指導者に声掛けして実施できた。</p> <p>▲授業改善までは至らなかった。子供達に「どんな力」をつけたいかを明確にして授業作りを今後も進めていく。</p> <p>▲授業計画について、環境の整理が必要であることが分かった。3S(ソツブル・ソム・ストリート)の重要性である。</p> <p>▲音楽の教科、授業作りまでの内容には至らなかった。</p> <p>○音楽を通して、子供の変化に気付けた。</p> <p>○通年でリハビリ担当の方と連携したり、医療専門職派遣事業の研修会を受けたりして、児童生徒の姿勢やポジショニング、体位変換などに生かした。</p> <p>▲今後、自立活動の取り組みについて担任間やリハビリ担当と一緒に考える機会を設けたい。</p> <p>○今年度も引き続き講師の方に来て頂き、授業改善の研究会が行えた。研究部主催の「まとめ研」も各学期末に行い、授業について検討できている。</p> <p>▲各学部の生活年齢に合わせた学習のねらいを各担任が設定して取り組んでいるが、各学部での話し合いに任せてしまっている。次年度も小中高の児童生徒が在籍するので、年度当初に校内研等の時間を使って検討できる機会をもてるようにしたい。</p>	
		教科等合わせた指導「生活単元学習」の研究授業及び授業改善等のアドバイスを専門家から受ける。	B			
		重度重複児童生徒にとっての教科「音楽」の授業作りについての研究会を実施する。	B			
		自立活動の目標を達成するために専門家からアドバイスを受け、日々の学習に生かす。	A			
	児童生徒の実態に沿った教育課程の編成	今年度の教育課程について校内研修を活用して職員間で検討する場を設定し、次年度の教育課程編成に活かす。	B	B		
		学部の系統性について検討し、各学部で児童生徒にどのような力を育てたいのかを確認し、教育課程に活かす。	B			
	健康安全(保)	児童生徒の保健管理の徹底	花ノ木医療福祉センター及び保護者と連携し、個人の特性や健康状態を的確に把握するとともに、教職員間における速やかな情報共有に努める。	B		B
			関係部署と連携し、感染予防対策を含めた日常の疾病予防および校内衛生管理を徹底し、安全な学習環境を整備する。	C		
		個の特性に応じた保健教育の実現	「見え方」のアセスメントを進め、個の特性を把握するとともに、日常の教育活動に反映できる資料作りを進める。	A		

			保健ニュースの発行を通して、児童生徒の保健教育への興味関心を深める。	A		子ども達にどう見えているかを意識して提示したり教材作りに生かしたりできた。 ○保健ニュースを教材として活用し、保健学習を行うことができた。(2回)
地域連携	交流及び共同教育(交)	「地域に根ざし、地域と生きる学校」を目指すために、交流及び共同学習の充実	居住地校交流(近隣の学校)を充実させる。	B	B	○近隣の小学校との交流は、感染対策の面から直接交流はできなかったが、リモート交流やプレゼントを通して間接的に交流を継続できた。 ○センターに協力してもらい、分校の芸術鑑賞に卒業生が参加し、交流することができた。 ○直接またはリモートでの交流を重ねる中で、互いを意識し、交流することができた。 ▲Withコロナにおいて、地域の人とふれあう機会を検討する。
			学校内交流(本校)との交流を充実させる。	B		
	「地域に根ざし、地域と生きる学校」を目指すために、新しい形の交流及び共同学習の推進	亀岡分校卒業生と在校生とを繋ぐ花ノ木医療福祉センターとの交流及び共同学習を実施する。	B	B		
		本校訪問生と同学年の分校児童との交流及び共同学習を実現する。	A		B	
			「地域に根ざし、地域と生きる学校」を目指すため、地域の人・場所との交流の開拓をする。	C		

※(運)→運営会議 (教)→教務部 (研)→研究部 (保)→保健部 (高)→高等部分教室 (医ケア)→医療的ケア担当者会
(教課)→教育課程検討委員会 (危)→危機管理対策委員会 (情)→情報担当
(交)→交流及び共同教育担当

学校運営協議会による評価	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人のニーズに合わせて取り組んでいる。 できるだけ集団で授業に取り組んでいる点は、児童生徒にとってよいことである。 花ノ木医療福祉センターとの信頼おける関係を引き続き継続・確認し、子どもにとってよりよい健康管理と教育を確保する体制を続けてほしい。 空き教室の活用を考えてみてはどうか。
--------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 専門家の助言を受けながら、更に授業改善を図る。 児童生徒の実態に沿った感染対策を継続していく。 保護者との連絡ツールを構築する。 地域の方々への発信とつながりを目指した取組を試行していく。 教育相談のシステムを構築する。
---------------	--